

## 耳鼻咽喉科・頭頸部外科

この文章を読んでいる貴方は耳鼻咽喉科・頭頸部外科医を志し、研修先を悩んでおられるのでしょうか。専門研修を始める場所はとても重要ですので、悩んで当然だと思います。私自身は学生の頃より耳鼻咽喉科を専攻しようという意思があり、様々な病院の耳鼻咽喉科・頭頸部外科を見てきて、最終的に当院にて研修をしたいと思ったため、初期研修より当院にて研修をさせて頂き、後期研修医採用試験を受けて専攻医として採用されて今に至ります。なぜ私にとって当院がbestと考えたかに関して以下に述べます。

当科には耳鼻咽喉科・頭頸部外科領域の疾患が偏りなく大量に集まります。具体的に手術症例を挙げると、耳科領域では慢性中耳炎・真珠腫性中耳炎などの中耳疾患や両側高度難聴を対象にした人工内耳手術、鼻科領域では鼻中隔矯正・内視鏡的慢性副鼻腔炎手術、頭頸部外科領域では良性腫瘍や再建を含めた悪性腫瘍手術、喉頭領域ではラリngoマイクロ手術や反回神経麻痺に対する甲状軟骨形成術などを対象としています。何故そんなことが出来るかというと、市中病院としてはかなり多くの医師がいること、また部長・スタッフの専門領域が違うため各々の専門外来に紹介患者が集まること、そして当院が神戸に留まらず広範囲の救急を担う救急病院の最後の砦であることが理由として挙げられます。2015年度のドクターの数は耳鼻咽喉科スタッフが2名、頭頸部外科スタッフが3名（一人はアメリカ留学中）、クリニカルフェローが1名、先端医療センタースタッフが1名（実際には当院にて一緒に診療に当たります）、専攻医が3名、外来の応援医師が2名と常勤医師だけで10名であり、さらに時期によっては初期研修医のローテーターが在籍していることもあります。耳鼻咽喉科と頭頸部外科とは名義の違いだけで基本的に一体となって活動していますので、専攻医は当院に来る大量の症例を余すことなく経験できます。また、当院の一番の特徴としては「教えたがり」の指導医が多いということです。これは専攻医にとっては一番重要なことではないでしょうか。とにかく実際にやってみるという文化があるので、早期から手術に積極的に参加し、横で見守ってもらいながら安全に手術が経験出来ます。やはり実際にやってみないとわからない部分も多々あり、早期から執刀することで手術の助手をする際にも見方が変わってきます。

一週間の具体的なスケジュールですが、一部の月曜日を除いて毎日が手術日であり、金曜日には3列並列で手術も行います。また緊急手術を入れたい時も類を見ないくらい融通を利かせて頂けます。毎週月曜日が部長回診で、実際に部長の診察を診るのはとても勉強になりますし、方針に悩んでいる症例があれば相談が出来ます。回診の後にカンファレンスがあり、術前症例や各ドクターの相談症例などの検討を行ったり、同科内での情報交換・連絡を行ったりしています。外来に関しては毎週1~2回初診を担当し、自分の再診枠も週1回あり、経過を追うことが出来ます。横の診察室で上級医が診察を行っており、自分では手に余る症例も気軽に相談が出来る雰囲気です。

その他、年間を通じて学会参加や論文執筆などの学術的な活動も非常に盛んで、毎年各種地方学会や全国学会に参加しており、専攻医の3年目には国際学会への参加も可能です。3年目には1か月程度院外研修をする権利も与えられ、場合によっては部長の幅広い人脈を生かして海外研修をすることも可能です。私自身はその院外研修とは別に1週間程度海外のsurgical training courseに参加させて頂けることとなりました。これも専攻医の能力の向上のために周囲がサポートしてくれる環境があるためと思っており、非常に感謝しています。

周囲環境に目を向けると、神戸市はとても住みよい環境です。息抜きをしたい時には、

お洒落な店・美味しい店が無数にある三宮まで10分余りで行けるため週末はよく羽根を伸ばしています。

医局内には常にアットホームな雰囲気が漂っており、上級医に対して、気軽に症例の相談を行ってアドバイスをもらったり議論を交わしたりすることができます。比較的耳鼻咽喉科医としては忙しい生活ではあると思いますが、それでも頑張ろうと思えるのは何よりもこのアットホームな雰囲気のおかげである気がしています。私は当院耳鼻咽喉科・頭頸部外科で初期研修も含めると1年4か月研修を行ってきましたが、自分の選択に間違いはなかったと実感しています。

耳鼻咽喉科医としての第一歩を踏み出す場所にお悩みの方には、是非一度当院に見学に来て頂けるとありがたいです。実際に来てみれば雰囲気が良いことはすぐにわかると思います。採用試験に関しては他のページを見たらわかるように院内からの採用が有利ということは一切なく、完全にフェアな採用基準がありますので、他院からの研修も大歓迎です。

貴方もこの恵まれた環境と一緒に充実した研修を行いませんか。